

令和7年度岐阜県美術館展示室等の利用に関する懇話会要旨

1 日 時：令和7年7月9日（水） 16：30～17：30

2 場 所：岐阜県美術館 特別応接室

3 出席者：【委員】河西座長、伊藤委員、傍島委員、馬淵委員、宮川委員、宮崎委員
【県】中根副館長、正村副館長、竹内課長、河合係長、広瀬主査

4 議 題

（1）令和8年度県民ギャラリー利用団体募集結果及び許可団体について

（2）優先順位について

（3）利用日程の決定方法について

（4）今後の県民ギャラリー利用団体募集要件について

5 議事要旨

（1） 令和8年度県民ギャラリー利用団体募集結果及び許可団体について

（2） 優先順位について

委員	優先順位3の会員数は県内の人のみか。
事務局	県外の人も入っている。全国組織の岐阜会場として開催することもあり、必ずしも会員は県内の方だけではない。
委員	大きな団体は、県が展示室を使用するため、開催できる時期が年によって変わることを敬遠するのではないか。
事務局	3年に1度芸術祭を開催するようになってから、県が展示室4を使う時期が3年ごとにずれるので、大きな団体で巡回展を計画しているところは、使いづらいという意見がある。
委員	優先順位1の学校は、卒業制作展覧会をするのか。
事務局	同窓会の方の制作展覧会を卒業展に準じる形で令和8年度に限って許可する。以前、別の学校の創立110年展があり、この学校も創立110年で節目の展覧会となる。
委員	昨年が47団体で今回44団体だが、県の展示が入ることが減少の理由か。
事務局	昨年は応募したが今年は応募していない団体に問い合わせたところ、隔年開催という回答だった。
委員	利用希望が減少傾向だが、何か対策はあるか。
事務局	団体構成員の方が高齢化して以前申し込まれた団体が解散してしまうなど、団体自体の事情もあるが、県民ギャラリー利用のPRをしていかないといけない。

（3）開催日程の決定方法について

委員	使用期間が1週間の理由は。
事務局	搬入を休館日の月曜日に行っているため1週間という単位になる。
委員	休館日を挟んでの期間は受け付けていないのか。
事務局	受け付けていない。期間が長くなれば料金が増え、団体の負担が増える。今でも大きいスペースは借りられず、小さいスペースしか借りられない団体が多い。また、なるべく多くの団体が利用できるよう1週間の単位としている。
委員	3日間だけの利用はできないのか。
事務局	8年度の申し込みは、祝祭日により9日間、3日間の期間もある。休館日に展示をしてもらう理由は、開館中のため他の一般のお客様に危険が生じないため。期間も部屋の大きさも、ご意見があれば今後の検討課題としていきたい。
委員	調整会議に該当する団体は多いのか。

事務局	9 団体を予定している。
委員	A 室と B 室と全室とあるが、時期によって希望の偏りはあるのか。
事務局	10 月と 2 ～ 3 月の A 室希望が重なっている。調整会議が必要な 9 団体はすべて A 室希望。
委員	資料 1 に記載されている共催・後援は、優先順位に関係するのか。
事務局	報道機関が主催もしくは、共催している団体が優先順位 2 となる。後援は優先順位には関係しない。

(4) 今後の県民ギャラリー利用団体募集要件について

委員	屋外展示場は県民ギャラリー使用者への貸出はないのか。講堂はどうか
事務局	屋外展示場はない。講堂は展示室等の利用に関する許可要件を満たせば、貸出しはできる。
委員	5 人未満で自分の持っているものを展示する企画はできるのか。募集には会員が展示品の作者であるという要件はない。
事務局	5 人以上で活動している団体に、活動の発表の場としてご利用いただいている。できるだけそういった制作者の方々のために使用してもらいたい。かつて希望者が枠を超えていたとき、会員が何十人というグループと、1 人 2 人で個展をしたい方を同じ基準で調整するのはどうかということで、少しでも多くの方々に利用していただきたいと、会員数や年齢の制限を設けた。今後応募数が減って空きも多くなるようなら、皆さんのご意見をお聞きしながら検討したい。
委員	ライブペインティングはどうか。いろんなところでイベントでやったりしている。席上揮毫やライブパフォーマンスとか。それも養生して、ちゃんとステージでやっている。前例も他ではあるので、ケースバイケースでの相談や指導になるのか。
事務局	危険性があるものや、展示室が汚れる可能性があるものはご遠慮いただきたい。もしそういった取り組みをするのであれば、使用条件を決めた上で、許可をしなければいけないと思う。
委員	企画展ではそういうものはあるか。作家が来てイベントやライブパフォーマンスをするような。
事務局	ライブペインティングはホールで館長が行った。展示室の中ではない。水や食べ物を許可しているのがアトリエなので、そういう作家の発表はアトリエで行う。